



大津まちなか食と灯りの祭

人間讃歌・人間尊重の県民育成を

超高齢社会に猛スピードで進んでおり、団塊の世代の推移状況に合わせて、新たな医療保険制度も介護保険制度も照準を合わせて改変されつつあり、2015年から2017年の第6期介護保険事業計画のなかで、どれだけ進展させようと考えられているのかが問題になっている。

2005年地域包括ケアシステムの構想として、地域住民は住居の種別（施設、有料老人ホーム、グループホーム、高齢者住宅、自宅）に関わらず、概ね30分以内、生活上の安全・安心・健康を確保するための多様なサービス等を、24時間365日を通じて利用しながら、病院などに依存せずに住み慣れた地域での生活を継続することが可能になる社会と夢のような姿が描かれているが、果たして実現可能なのか。

高齢者の生活支援サービス（見守り、緊急通報、安否確認・移動支援、社会参加の提供その他電球交換・草むしりなどの日常にかかる支援）に関しては、自治会やNPOなどの住民主体の活動隊が中核を担っているなどとしているが、今でも地域によっては自治会加入率が低く、本当にできるかどうか。

このようなサービスや制度がある安心社会を実現できるようにするためには、緊急時や、必要な時に利用できる医療や、介護・福祉機関と、地域福祉がセットになつて整備されることが肝要である。専門の医師、看護師、介護支援専門員、介護福祉士など国家試験や資格をもった人々の積極的な関与のもと、患者や利用者の立場にたったサービスが提供されることが、確実なものとなさなくてはならないと考え、提案と質問をしました。



質問をする 沢田議員

人材確保を可能にするための提案

県が横断的に今から着手することによって、やがて、医療・介護・福祉なら全国一といわれるような将来像を描いた「加齢」「交齢」教室の展開……



普段はテレビを相手に食べていることのできる高齢者の方々に、昼ご飯を食べてもらえ、祖父母と一緒に暮らしている若者にとっても、昼食をとりながらおしゃべりすることで、心の栄養をいただくこともできる。

楽しみながら、異世代間の交流・理解を深め合うことで、若者にとっては、同世代からは学ぶことができない、高齢者の知恵から多くのことを学ぶことができ、やがて高齢者に理解のある人が育ち、介護人材の育成にもつながっていくのではないかと。

真に豊かで隙のない地域包括ケアシステムを構築することによって、少子高齢社会を乗り越えるために、先に提案したような、じっくり時間をかけて人間讃歌、人間尊重の滋賀県民が育つ独自の世代間交流の取組みに対して、どのように受け止められるか。

このほかに、子ども被災者支援法が、全会一致で可決された時には衆議院議員で、今や、「卒原発」を訴えて当選された三日月知事に子ども被災者支援法に則った支援策について質問しました。

かけて人間讃歌、人間尊重の滋賀県民が育つ独自の世代間交流の取組みに対して、どのように受け止められるか。

A 知事 若者と高齢者がご飯を食べながら語り合う、じっくり時間をかけて県民が育っていくという視点は、みんなで「地域包括ケアシステム」を創るという上で、土台となる「互助」の観点から、非常に重要であると考えております。高齢者を囲む食事会や子どもたちとの交流会の輪が、県全体に広がるよう、先頭に立って取組みを推進してまいります。

Q 現在高齢者が、食事をどのように摂られているかその実態、異世代交流の実情や効果などについての所見を。

A 健康医療福祉部長 高齢者の約6人に1人が、ひとりで食事（H23全農調査）をされており、食への意識が高いほど、社会活動をしている割合も高いとの関連性も示されています。食を通じて若い世代と交流することは、高齢者の生きがいづくりや介護予防の面でも大変有効なものです。

Q 高校における高齢者との交流や高齢者理解の学習を進めることの重要性、そして現在の取組状況について伺う。

A 教育長 核家族化の中、高校生が合う機会を設け、社会の中でどう支えあっていくかを体験し考えることは、高齢者理解を進めるうえで重要であり、また介護や福祉に携わる人材を育成する視点においても重要であります。

このほかに、子ども被災者支援法が、全会一致で可決された時には衆議院議員で、今や、「卒原発」を訴えて当選された三日月知事に子ども被災者支援法に則った支援策について質問しました。

このほかに、子ども被災者支援法が、全会一致で可決された時には衆議院議員で、今や、「卒原発」を訴えて当選された三日月知事に子ども被災者支援法に則った支援策について質問しました。

県議会控室へ、気軽にお越しください。直通電話 077-5288-40157

8/25 長浜市方面へ研修

◆長浜市から運営を委託され、事業を志す人に、起業開始から成長へ向けて支援を行っている「長浜バイオインキュベーションセンター」を訪問。バイオビジネスの育成と地域産業の振興を図るプロジェクトを拝聴。地元企業が地域資源を活かし、世界を視野に入れた新たな可能性に取り組みされていた。



9/5-6 和歌山県方面へ研修

◆和歌山県庁で、平成23年度台風12号の復旧復興「風水害を含めた防災対策」について研修。復旧復興の現状や災害時緊急機動支援隊の役割など大変参考になった。



旧木造校舎を活かした宿泊施設

会派活動

◆その後、平成26年6月に開設した「湖北介護福祉人材センター」を訪問。現場は、従事する職員の数だけでなく、職員の資格取得や専門職員の確保など、働く側の専門性が求められており、まず人手を確保し、人材は現場で育てるといった意識に変わってきたとの話を拝聴し、問題の深刻さを感じた。

◆無農薬やこだわりの有機肥料で作ったお米を独自の手法で消費者と直接結びつきながら生産販売を行っている吉田農園を訪問。先代が大切に耕してこられた田畑だけでなく、高齢化する地権者の水田を預かって、試行錯誤を繰り返しながら、独自の農法を展開され大きな成果を上げておられた。



◆今年8月15日の大雨で長浜市の一部地域で床下浸水が発生。滋賀県長浜土木事務所から現場を調査。



◆今年8月15日の大雨で長浜市の一部地域で床下浸水が発生。滋賀県長浜土木事務所から現場を調査。



◆1939（昭和14）年に建てられた「滋賀県庁舎本館」が国登録有形文化財に指定されました。



◆甚大な被害を受けた伏見野地域および熊野地域の土砂ダム跡へ。現在も復旧活動が続く現場で、被害に遭われた方から、住民の連携状況などを伺った。